

精神科訪問チームと精神科病棟・外来看護師との連携強化にむけた取り組み ～アンケートでみえた課題～

澤村のりこ* 岩本鮎美 清水須美子

NHO 鳥取医療センター 看護部 地域医療連携室

Efforts toward strengthening cooperation between the psychiatry visiting team and the psychiatric ward and outpatient nurses – Challenges identified by the questionnaire –

Noriko Sawamura*, Ayumi Iwamoto, Sumiko Shimizu

Regional Medical Liaison Office, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: 鳥取市三津 876 番地地域医療連携室

要旨

精神障害者が地域社会の中で生活していくためには、衣食住、経済面、通院の継続、日中の活動場所など、多くの要素において、様々な支援の整備が必要である。地域で生活する精神障害者が入院する場合には、地域生活の情報提供が必要不可欠であり、精神科訪問チームがその役割を担っている。しかし、精神科病棟・外来看護師と精神科訪問チームとの連携や情報共有ができていない。そこで、連携を深める必要があり、精神科訪問チームを理解してもらうことが連携の第一歩と考え、精神科病棟・外来看護師を対象にアンケートや勉強会を実施した。病棟・外来看護師は、精神科訪問チームの存在は知っているが、その活動内容を正確には把握していなかった。お互いの連携の必要性、情報共有の場を設定する必要性を感じた。これにより、入院中から退院後の継続した精神障害者への支援に繋がると考える。鳥取臨床科学 10(2), 86-91, 2018

Abstract

For individuals with mental disabilities to live among local community, there is a need for the preparation of various kinds of support in many factors, such as food, clothing, shelter, economic aspects, continuation of attending hospital and place of activity during the day. In the case of individuals with mental disabilities living locally being hospitalized, the providing of information in local life is essential, and the psychiatry visiting team carries this role. However, cooperation and the sharing of information between the psychiatric ward and outpatient nurses and the psychiatry visiting team is incomplete. Here, we thought that there was a need to deepen cooperation and that having the psychiatry visiting team be understood was the first step to cooperation, and carried out questionnaires and study groups with the psychiatric ward and outpatient nurses as the subjects. The ward and outpatient nurses knew about the existence of the psychiatry visiting team, but they did not have an accurate grasp of the content of their activities. We felt a need for them to cooperate with each other and for the establishment of a place to share information. Through this, we think that it will lead to the support towards

Key words: 精神科訪問看護, 精神科訪問チーム, 地域社会生活への移行, 地域連携; psychiatry visiting nursing, psychiatry visiting team, changing to local community life, regional medical liaison

1. はじめに

当院では, 精神科訪問看護 (以下, 精神科訪問チーム) を行っており, 看護師 4 名と精神保健福祉士 1 名で活動している. 精神障害者が地域社会で生活していくためには, 自宅で薬を服用して静かに生活を送るというだけでは実現しない. 地域社会の中での生活は, 衣食住, 経済面, 通院の継続, 日中の活動場所など, 多くの要素から成り立っており, 様々なサービスを利用しながら地域生活を送っている.

訪問看護もサービスの一つで, 当院の精神科訪問看護の利用者は 42 名 (平成 30 年 11 月現在) である. 平成 29 年度に退院後, 1 年未満で再入院した利用者は 7 名で, その退院後は, 7 名全員が訪問看護を再開している. 地域で生活する患者が入院する場合には, 地域生活の情報提供が必要不可欠であり, 訪問看護を利用している場合は, 精神科訪問チームがその役割を担っている. しかし, 精神科訪問チームから精神科病棟・外来看護師に情報提供の場がないのが現状で, 地域生活の様子や支援状況を伝えることができていない. また, 病棟担当の精神保健福祉士からの情報提供はあるが, 看護師からの相談・情報提供は少なく, 精神科病棟・外来看護師と精神科訪問チームとの連携や情報共有ができていないと感じている.

そこで, 連携を深める必要があり, 精神科病棟・外来看護師に精神科訪問チームを理解してもらうことが連携の第一歩と考え, アンケートや勉強会を実施した. その取り組みを報告する.

2. 目的

精神科病棟・外来看護師に精神科訪問チームとその訪問内容を理解してもらい, 精神科病棟・外来看護師と精神科訪問チームとの連携を深める.

3. 取り組み方法

1. マニュアルやパンフレットを現状に合ったものに見直し, 精神科病棟と外来に配布した.
2. 訪問看護を導入前のスクリーニングツールとして, また, 訪問看護導入の目的を明確化するために, 訪問看護導入アセスメントシート (図 1) を作成した.
3. 精神科病棟・外来看護師が, 精神科訪問看護に対してどう思っているのかを明らかにするために, アンケート (図 2) を実施した.
4. 精神科病棟・外来看護師を対象に勉強会を実施した. 内容は, 精神科訪問チームの紹介, 事例紹介, 訪問看護導入アセスメントシートの活用方法の説明等であった.

4. 結果

1. アンケート結果

精神科病棟・外来の看護師にアンケートを実施し, 22 名から回答を得た. 当院が精神科訪問看護を行っていることは, 全員知っていた. しかし, 精神科訪問看護のイメージは, 「わからない」, 「遠い存在」との回答や無記入が多かった. 精神科訪問看護を実際に勧めようと思った看護師は 8 名で, 勧めようと思った理由は, 「服薬管理」, 「悪化の早期発見」などであった. 訪問看護以外のサービスでは, 後見制度や相談支援などの入院中か